

ジベレリン散布処理による‘カラ’の果皮障害軽減

カラの果皮障害（水腐れ）は、着色終期にジベレリン散布することで軽減できることを確認（単年度成績）。
 注1) カラに対してのジベレリン液剤の農薬登録はないため、早期の適用拡大に向けた試験を継続中。
 注2) 5分着色期でのジベレリン散布では緑斑が発生する傾向があるため、散布時期に注意が必要。

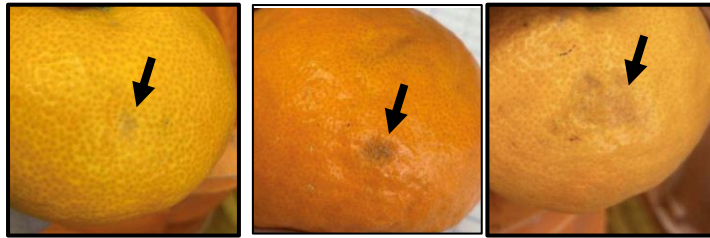
ジベレリン散布処理



6~8分着色期 8~10分着色期

ジベレリン (GA) の処理方法
 時期: 6~8分着色期、8~10分着色期
 濃度: 0.5ppm、1ppm

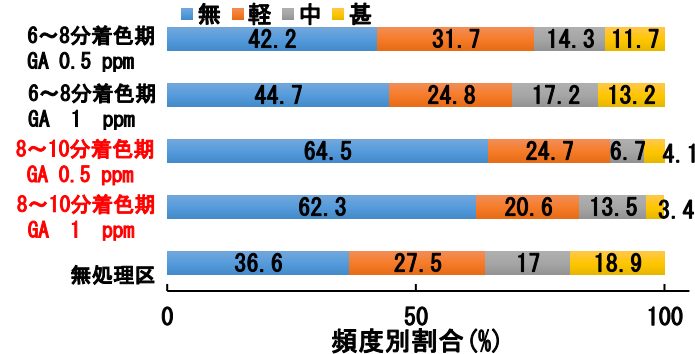
果皮障害（水腐れ）の程度基準



軽 中 甚

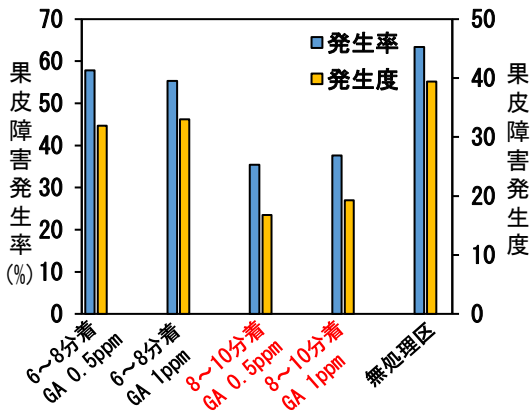
果皮障害（水腐れ）の程度は次の基準で評価
 軽: 薄い褐変がごく一部分に見られるもの
 中: はっきりとした褐変がごく一部分に見られるもの
 甚: はっきりとした褐変が広い範囲に見られるもの

果皮障害（水腐れ）の頻度別割合



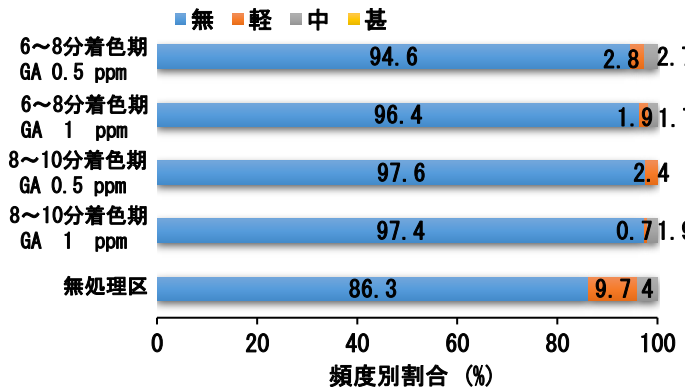
8~10分着色期のジベレリン散布が最も果皮障害（水腐れ）の軽減効果がみられた。

果皮障害（水腐れ）への効果



発生率、発生度ともに 8~10分着色期のジベレリン散布が低い傾向。

緑斑への影響



ジベレリン散布による緑斑への影響は認められなかった。

果実品質への影響

試験区	1果平均重 (g)	果肉歩合 (%)	糖度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)	果皮色 (a値)
6~8分着色期 GA 0.5 ppm区	122.1	77.0	15.1	1.35	21.49
6~8分着色期 GA 1 ppm区	130.9	76.2	15.7	1.44	21.90
8~10分着色期 GA 0.5 ppm区	125.9	74.6	15.7	1.24	22.70
8~10分着色期 GA 1 ppm区	111.1	74.9	15.2	1.09	22.61
無処理区	119.7	75.7	14.8	1.32	21.31
有意性	ns	ns	ns	ns	ns

注1) Tukeyの多重検定により、nsは有意差なし (n=10)

ジベレリン散布による果実品質への影響は認められなかった